
NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2024.9/10

国立国会図書館 月報



企画展示

ひろげて、まいて、あらわれる 絵巻の世界

世界図書館紀行

韓国の図書館一戦前の日本語図書を訪ねて

国立国会図書館 月報

NO. 761/762
SEPTEMBER/OCTOBER 2024

CONTENTS

1 旅の出会い は地を越え、時を越え

— *Pioneering in the Far East* —

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

5 企画展示

ひろげて、まいて、あらわれる 絵巻の世界

14 世界図書館紀行

韓国の図書館—戦前の日本語図書を訪ねて

25 館内スコープ

アジア情報研修の舞台裏

26 本屋にない本

『近代村絵図・地図の世界 明治の地図は
どうつくられたか 長野県絵図・地図共同
研究報告書』

27 NDL Topics



表紙：[ざくろにぶどう]
小林清親 筆 [明治年間] 錦絵 (23.4 × 35.5cm) 1 枚
([『清親畫帖』 [3] 所収])
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2605149/1/12>

旅の出会いには地を越え、時を越え

— *Pioneering in the Far East* —

曾木 颯 太 朗



外観写真。厚い革の表紙にタイトルが金で刻まれ、東南アジアの情景が型押しされています。



表紙

Pioneering in the Far East : and journeys to California in 1849 and to the White Sea in 1878.

Helms, Ludvig Verner. London : W. H. Allen, 1882 vi, 408 p. 23 cm.
<GA75-5>

旅先の事物、風景、そして人々……旅には必ず多くの出会いがあります。古来多くの旅人たちが旅先の興味深い出会いを驚きや感動も交えて、書物を著してきました。

本書 *Pioneering in the Far East : and journeys to California in 1849 and to the White Sea in 1878* もその一つ。デンマーク出身の商人だったルズヴィ・ヴェーナー・ヘルムス (Ludvig Verner Helms 1825～1918) が1882年に出版した半生記です。当館ではヘルムスが娘にプレゼントするためモロッコ革で装丁した特装版を所蔵しています。

ヘルムスは成功を夢見て1846年にデンマークから東南アジアに渡り、バリ島やボルネオ島などで20年以上の間、交易に従事しました。その後アメリカやロシア・白海沿岸地方も旅しています。本書は世界を巡った半生を振り返り、訪れた先での見聞や出会いを地誌や歴史を交えて事細かに記したものです。例えばボルネオでは鉱物を求めて山岳地帯や密林を踏破し自然の美しさに感嘆するとともに、現地住民の村落の様子や習俗を詳細に記録しました。また、鉱山開発を企図して赴いた白海沿岸では乗ってきた船が座礁するなど、の困難を克明な筆致で描いています。さらに自身によるスケッチも記述に彩りを添えています。あくまで19世紀の西洋人の視点ではあ

本書に収められた
ヘルムスの挿絵から

カンボジア



交易のため1851年にカンボジアに渡り、国王と会見します。国王はヘルムスを厚遇し、何と象を贈ろうとしたそうです。

ボルネオ



(左) ボルネオ島の現地住民。(上) ボルネオ島の鉾山近くのバンガロー。ヘルムスもこの1つに住んでいました。

るものの、旅先への商業的な期待と自然や文化など未知なるものへの強い関心がかがえるのです。

ところで、ヘルムスはボルネオからヨーロッパへの帰路、明治初期の日本に立ち寄っており、一部始終を記しています。今日読む私たちには残念なことに、日本に関する挿絵は収録されていないため、情景を頭に描きつつその足跡を少しだけ辿ってみましょう。

ヘルムスは1872年6月28日(明治5年5月23日)に上海から船で長崎に到着しました。出島の狭さに驚きつつ、居住を強いられたオランダ人に同情を寄せています。長崎からは海路で神戸・大阪に向かいました。大阪では「[O]のホテル」に泊まったと記していますが、初期の洋風ホテルとして知られる自由亭ホテルのことようです。この時点でヘルムスは日本の事物を興味深いとしながらも、通りは狭く街並みは威容を欠くと指摘し、「自然にこそ絵に描いたような美しさがある」と述べています。

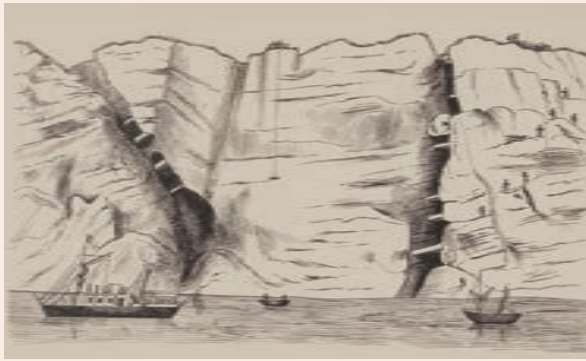
そんなヘルムスも京都に来て一変、その賑わいや美しさに驚いています。特に寺社の壮麗さに感銘を受けたようで、微細な点まで観察し「絵のように美しい」とつづっています。当時京都では第1回京都博覧会が開かれていました。会期中は一般の外国人の入京も特別



サンフランシスコ

1850年に訪れたサンフランシスコを丘から見た様子。1872年に再訪した際にはこの丘も無くなっており、あまりの変貌ぶりにヘルムスは驚きを隠せませんでした。

白海沿岸



(左) 白海沿岸地方の銅鉱山。ヘルムスは各地で有望な鉱山を探索し、開発のチャンスを追っていました。(右) 白海沿岸を航行中、荒天に巻き込まれて座礁したヘルムスの乗船。

※本書の挿絵は、ここで紹介したもの以外も含め、白幡洋三郎 編『海外日本像集成 日文研所蔵欧文図書所載』第4冊 (1881-1885) (国際日本文化研究センター, 2014 <GB63-L23>) に収録されている他、国際日本文化研究センターの外像データベース (<https://sekiei.nichibun.ac.jp/GAI/ja/top/>) で閲覧できます。

に許可され、770人が訪れたとされます。ヘルムスは京都を旅した最初期の外国人観光客の1人になるのでしょうか。会場となった知恩院や西本願寺、建仁寺を訪れ、陶器や絹織物などのお土産を購入しています。また、円山ではお茶を味わいつつ、「200人の少女の踊りを楽しんだ」と書いています。博覧会開催に合わせて始まった祇園の都をのりを見物したようです。

さらに横浜を経て、東京に足を踏み入れます。1872年4月(明治5年2月)の銀座大火から間もない時期でもあり、到着直後にヘルムスは「東洋最大の都市にやってきたことを実感させるものは何もない」と述べ、予定の宿を変えざるを得なくなったと記すなど、その被害の甚大さがうかがえます。他方で、芝や浅草、上野を見物し、江戸城や増上寺、寛永寺などの壮大さに感じ入るとともに、それらを築いた武士の時代が過ぎ去ったことに寂しさも覚えていたようです。

このようにヘルムスはひと月余りの日本滞在を満喫し、全体的に好印象を持ったことが伝わってきます。

横浜からサンフランシスコに向けて出港したのは1872年8月8日のことです。ヘルムスはこの航海で1人の中国人と7人の日本人と出会いました。親しく言葉を交わした「素

クラブ・コレクション

クラブ・コレクションについてはリサーチ・ナビ「クラブ・コレクション」及び小林昌樹「あの人の蔵書 第1回 クラブ・コレクション」(本誌695号, 2019.3 http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11242284_po_geppo1903.pdf?contentNo=1#page=15)を参照してください。



リサーチ・ナビ「クラブ・コレクション」
https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/humanities/post_100041



ヴァーナー W. クラブ肖像

画像出典: Wikimedia Commons

<https://commons.wikimedia.org/wiki/File:L.Cmaster-mss-mff-001-001027-0001.jpg>

晴らしく博識な」中国人は中国出身者として初めてアメリカの大学を卒業した容閔(Yung Wing 1828～1912)のようです。容は当時清からアメリカへの留学生集団派遣計画を進めており、準備のため一足先に渡航するところでした。また「向学心が素晴らしい」と評した日本人たちの名も書かれていませんが、当時の記録などから初めての洋行に乗り出す実業家の大倉喜八郎(1837～1928)や、ドイツ留学に赴く途中だった医師の橋本綱常(1845～1909)たちだったとみられます。

ヘルムス自身は本書を執筆して旅の多い生活に終止符を打ちますが、本書の「旅」はこれで終わったわけではありませんでした。娘に贈られた後には、孫のヴァーナー・W・クラブ(Verner W. Clapp 1901～1972)の手に渡りました。クラブは米国議会図書館副館長を務めるなど米図書館界で活躍した人物です。さらに、国会図書館設立に関して助言を得るために衆参両院が招聘した図書館使節の一員として1947年に来日し、基本的な制度設計について勧告するなど当館設立に深く関与したことも知られています。1968年の当館の開館20周年と本館竣工を機に再来日した際、記念に本書を寄贈したのでした。没後に遺族から寄贈され

た図書館情報学関係資料とともに、本書は今日当館の特別コレクションであるクラブ・コレクションを構成しています。

本書を一度ひもとけば、読者はヘルムスの旅した19世紀の世界へと誘われることでしょう。新たな読者との出会いを今も静かに待っているのです。

○参考文献

- 大倉喜八郎『努力』実業之日本社、1916 <https://dl.ndl.go.jp/pid/955095>
大槻喬 編『京都博覧協会史略』京都博覧協会、1937 <https://dl.ndl.go.jp/pid/1228395>
京都博覧協会『京都博覧会沿革誌』京都博覧協会、1903 <https://dl.ndl.go.jp/pid/801765>
手塚晃、国立教育会館 編『幕末明治海外渡航者総覧』柏書房、1992 <GB13-E58>
東京経済大学史料委員会[編]『稿本大倉喜八郎年譜』第3版 東京経済大学、2012 <GK114-J22>
富田仁 編『海を越えた日本人名事典 新訂増補』日外アソシエーツ、2005 <GB12-H42>
日本赤十字社病院 編『橋本綱常先生』日本赤十字社病院、1936 <https://dl.ndl.go.jp/pid/1222611>
三谷弘『百年後の奇縁』『参考書誌研究』18号、1979.7
http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3051075_po_18-04?contentNo=1
村岡実『日本のホテル小史』中央公論社、1981 <https://dl.ndl.go.jp/pid/12059787>
容閔 著、百瀬弘 訳注『西学東漸記 容閔自伝』平凡社、1969 <GK358-1>

※<>内は当館請求記号

令和6年度企画展示

ひろげて、
まいて、あらわれる

絵巻の世界

ひろげて、まいて、ひろげて、まいて……。それを繰り返してあらわれるのは、雅な王朝貴族の世界か、はたまた風変わりな姫君や、空を飛ぶ米俵が登場する世界か。いつの間にか、鬼や化け物が棲む異界へと引き込まれているかもしれません。

絵巻の多くは、人の手で写し、伝えられてきました。写す目的はさまざま、有名な絵巻と同じものを所有したいと思う人もいれば、研鑽のために描き写す絵師もいたでしょう。絵師の腕や個性も相まって、実に多様な写し(模本)が生まれました。当館が所蔵する絵巻の多くは、そうして写し、伝えられてきたものです。

この記事では、今年秋に当館で開催する企画展示「ひろげて、まいて、あらわれる 絵巻の世界」から、出展資料の一部をひと足先にお届けします。

(利用者サービス部サービス企画課)



入場無料

東京会場

国立国会図書館東京本館 展示室(新館1階)

10/1(火)～11/9(土)

※日曜、祝日及び10/16(水・資料整理休館日)は休館

10時～19時(土曜日は17時まで)

関西会場

国立国会図書館関西館 地下1階大会議室

11/15(金)～11/29(金)

※11/20(水・資料整理休館日)、23(土・祝)、24(日)は休館

10時～18時(11/17(日)見学デーは16時まで)

※東京本館では第1期～第3期で展示替えを行います。展示替えの日程や、その他の開催概要については、p.13をご覧ください。

第1章 絵巻で楽しむ 物語

巻子の形式で作成された絵入りの作品には、行事の記録や図鑑のようなものも含まれますが、主流はなんといっても、物語を絵と詞書で語る、ストーリー性を持つ絵巻です。

平安時代には、王朝を舞台とする絵巻や、説話・伝承を題材とする絵巻が生まれ、やがて時代の移り変わりとともに、合戦絵巻や寺社縁起絵巻、御伽草子を題材とする絵巻などへと展開します。

第1章では、貴公子、姫君、高僧、庶民など様々な登場人物が紡ぐ物語を、絵巻に心躍らせ、写し、伝えてきた人々の気持ちとともに楽しんでみてください。



(巻49 宿木 (二)) 匂宮が結婚した六の君を迎えた3日目の朝の場面 (東京会場第2期展示予定)

源氏物語絵巻

源氏物語絵詞
和田正尚写

明治四四(一九一)年

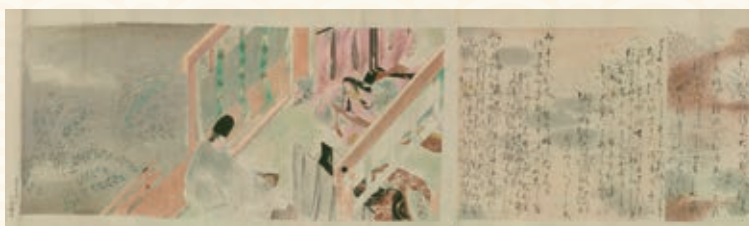
※原本は平安時代末期の成立



(巻36 柏木 (一)) 出家したいと女三宮が泣いている場面 (東京会場第1期展示予定)



(巻36 柏木 (三)) 女三宮が出産した薫を見つめる光源氏 (東京会場第3期展示予定)



(巻40 御法) 病に臥せる紫の上を見舞う光源氏と明石の姫君 (関西会場展示予定)





かぐや姫と、その前に並ぶ5人の求婚者（関西会場展示予定）



求婚者の1人が探し出した火鼠のかわごころも裘を持参する場面（東京会場第2期展示予定）



月に帰るかぐや姫（東京会場第3期展示予定）

竹取物語絵巻
竹とり物語
〔江戸前期〕写



倉を追いかける人々

グラグラと揺れ出す倉に驚く人々



倉を返してほしいと命蓮に頼む長者



戻ってきた俵に驚く人たち

鉢に乗って飛んでいく俵とそれを見上げる鹿

信貴山縁起

志貴山縁起

「江戸後期」写

※原本は平安時代後期の成立

信貴山朝護孫子寺の中興である命蓮みょうれんの3つの奇跡譚を描いた信貴山縁起から巻1・山崎長者の巻を紹介します。

命蓮は、法力で托鉢の鉢を麓の長者の元に送り、食べ物載せてもらっていました。ある時、長者が鉢を倉に入れたまま放置すると、倉から鉢が飛び出し、倉を載せて飛んで行ってしまいます。驚いた長者が命蓮に倉を返してほしいと頼んだところ、倉は返せないが中ものは返そうとのこと。そこで言われたとおり、鉢の上に米俵を載せると、倉の中にあつた米俵が次々と空を飛び戻っていききました。



倉を追いかける道中の長者一行

倉に飛びつこうとする人々



命蓮に言われた通り鉢に俵を載せ、見守る一行

巻1・山崎長者の巻
(東京会場第1期展示予定)



絵巻の始まりと終わりに同じ場所が描かれる構成となっている



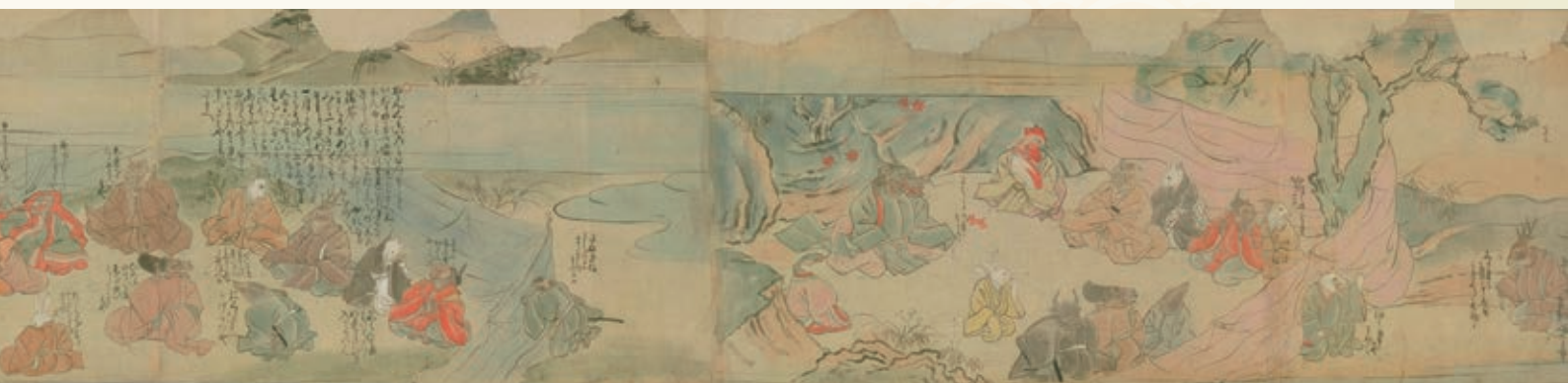
東京会場第1期にて、巻1・山崎長者の巻をおよそ7メートルにわたって展示します。第2期には巻3・尼公の巻を、関西館では巻2・延喜加持の巻を展示します。

第2章 模写された絵巻の みどころ

第2章では別の視点から「絵巻の楽しみ方」をご紹介します。

ひとつは、長い紙をひろげて、まいて鑑賞する卷子本（巻物）という形の面白さです。妖怪の長い行列を描いたり、現世から異界への境界線をいつの間にか越える様子を描いたり、絵を図鑑のように連ねたりと、その特性を活かした作品が作られてきました。

もうひとつは、模本の面白さです。今回展示する絵巻のほとんどは、原本ではない「模本」です。ただのコピーのように思われがちですが、原本では破損している箇所が模本では残っていたり、作者や由来について書きこまれていたり、模本でしかわからないことがたくさんあります。本章では、模本ならではの絵巻の楽しみ方を紹介します。



百鬼夜行絵巻

百鬼夜行絵巻

〔江戸中期〕写

十二類絵巻

十二類巻物

住吉如慶 写

寛文一（一六六一）

付喪神

付喪神絵

〔江戸時代〕写

東京会場では展示替えごとに約11メートルのスペースいっぱいには広げた異類絵巻をご覧いただけます。関西館では『百鬼夜行絵巻』を展示します。

『百鬼夜行絵巻』は数多くの模本がありますが、展示資料は冒頭の詞書と、それに続く男2人が語り合う導入部の絵があるものとして、国内で知られている唯一のものです。



百鬼夜行絵巻（東京会場第1期・関西会場展示予定）



十二類巻物（東京会場第2期展示予定）



付喪神絵（東京会場第3期展示予定）

そのほかの 出展資料（二部）

平治物語絵巻



伊吹童子



春日権現験記



浦島太郎



大江山絵詞



紫式部日記絵巻



道成寺縁起



年中行事絵巻





三十六歌仙絵巻



鳥獣人物戯画



八嶋



梅津長者物語



酒飯論



依藤太絵巻

企画展示「ひろげて、まいて、あらわれる 絵巻の世界」開催概要

入場無料

東京会場

国立国会図書館東京本館 展示室（新館 1 階）

10/1（火）～ 11/9（土）

※日曜、祝日及び 10/16（水・資料整理休館日）は休館

10 時～ 19 時（土曜日は 17 時まで）

東京会場では第 1 期～第 3 期で展示替えを行います。

第 1 期：10/1（火）～ 10/12（土）

第 2 期：10/15（火）～ 10/26（土）

第 3 期：10/28（月）～ 11/9（土）

関連講演会

東京本館で企画展示に関連した講演会を開催します。

参加をご希望の方は、ホームページ上の申込みフォームからお申し込みください。

演題：絵巻鑑賞のイロハ

講師：土屋貴裕氏（東京国立博物館 学芸研究部
調査研究課絵画・彫刻室 室長）

日時：10/26（土） 14 時～ 15 時 30 分

会場：国立国会図書館東京本館 新館講堂

関西会場

国立国会図書館関西館 地下 1 階大会議室

11/15（金）～ 11/29（金）

※ 11/20（水・資料整理休館日）、23（土・祝）、24（日）は休館

10 時～ 18 時（11/17（日）見学デーは 16 時まで）

- ・展示は 2 章構成で、各会場とも一度に約 30 点の絵巻を展示します。
- ・各会場・展示替えごとの詳しい出展資料の情報は、ホームページにて公開予定です。
- ・国立国会図書館が所蔵する主に近世以降に作成された模本の展示会です。貴重な一点物の資料ではありますが、重要文化財などの展示はありません。

企画展示ホームページ

企画展示に関する最新の情報は、
国立国会図書館ホームページから
ご覧ください。



<https://ndlsearch.ndl.go.jp/gallery/emaki>



世界図書館紀行

韓国の図書館一戦前の日本語図書を訪ねて

河村 真澄

はじめに

かつて日本が朝鮮を植民地として統治していた時期、朝鮮半島各地にも図書館が設置され、最も多い1932年で52館（官立2・公立17・私立33）を数えたとされます^①。

その1932年度時点の官立・公立の図書館における和漢書の蔵書数を見ると、官立の朝鮮総督府図書館と鉄道図書館^②が群を抜いて多く、公立では京城（現・ソウル）、平壤、釜山といった主要都市の図書館が上位を占めます（表1参照）。

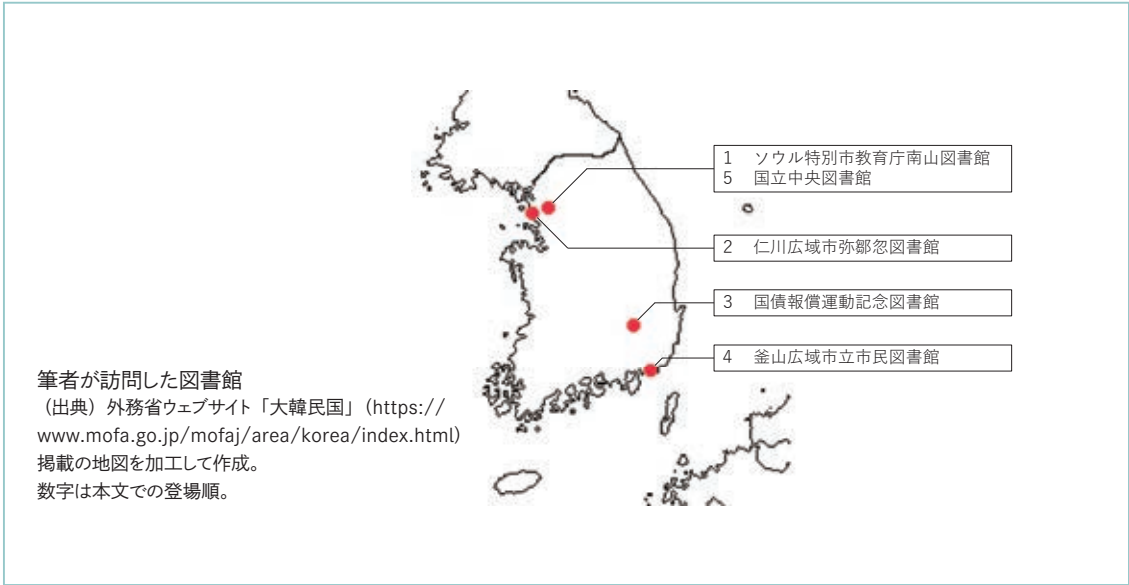
これらの図書館では、主として日本語の図書や雑誌などを収集し閲覧に供したとされますが、終戦に伴う日本人の引揚げに際して図書館とその蔵書は現地に残され、一部の資料はそのまま韓国の図書館が継承して現在に至ります。

これらの資料のなかには、江戸時代以前の日本の古典籍や日本国内の図書館で所蔵が確認できない近代の図書・雑誌・新聞などが含まれることから、これまでもその価値が注目されてきました^③。希少な古典籍は言うまでもなく、近代の出版物についても、当時の社会や思想などを解き明かすための大切な研究資源となります。しかし、各所蔵機関の蔵書目録といった基本的な検索手段すら、日本国内

種別	館名	創立年月	設立者	和漢書(点)
官立	朝鮮総督府図書館	1923(大正12)年11月	朝鮮総督府	121,860
	鉄道図書館	1920(大正9)年7月	鉄道局	82,681
公立	京城府図書館	1922(大正11)年6月	京城府	33,732
	京城府図書館鐘路分館	1926(大正15)年4月	京城府	17,213
	仁川図書館	1921(大正10)年11月	仁川府	5,740
	清州図書館	1931(昭和6)年9月	清州邑	3,113
	群山府図書館	1932(昭和7)年8月	群山府	7,629
	全北文庫	1922(大正11)年9月	全羅北道	3,091
	光州邑図書館	1932(昭和7)年4月	光州邑	2,927
	木浦図書館	1928(昭和3)年6月	木浦府	4,086
	大邱府図書館	1919(大正8)年7月	大邱府	9,737
	釜山府図書館	1901(明治34)年10月	釜山府	11,977
	馬山府図書館	1928(昭和3)年10月	馬山府	4,219
	御成婚記念海州図書館	1925(大正14)年3月	海州邑	940
	平壤府図書館	1928(昭和3)年8月	平壤府	13,433
	鎮南浦府図書館	1931(昭和6)年12月	鎮南浦府	1,272
	咸興府図書館	1930(昭和5)年10月	咸興府	1,607
	元山府図書館	1928(昭和3)年7月	元山府	2,042
	清津府図書館	1927(昭和2)年6月	清津府	145

表1 1932年度時点の官立・公立図書館の状況

(出典) 朝鮮総督府 編『朝鮮総督府統計年報 昭和7年』朝鮮総督府, 1934 <https://dlndlg.go.jp/pid/1443712/1/366>
(注記) 館名・創立年月は本文の記載と異なることがあります。



の図書館での所蔵が少なく、資料へのアクセスにハードルがあったのも事実です。

筆者は2023年10月に韓国を訪問した際、戦前の蔵書を引き継いでいる5つの図書館を訪れる機会を得ました。本稿では、その際に伺った内容を交えつつ、日本統治期の図書館で所蔵されていた日本語資料、とりわけ戦前の日本語図書について、その現状を紹介します。なお、本稿で紹介する図書館では、戦後の日本語図書も収集・所蔵していますが、本稿では戦前の日本語図書に焦点を当てて、断りします。

1 ソウル特別市教育庁南山図書館

ソウル特別市教育庁南山図書館⁽⁴⁾は、1922年に開館した京城府立図書館をルーツに、戦前は徳寿宮の近くに置かれていました。

戦後は南大門図書館となり、1965年に南山の麓へ移転するとともに南山図書館と館名を改めています。終戦時にあった6万点余りの蔵書は、ほぼすべてが日本語図書であったとされ、現在は約5万1千点が残されています。

これら日本語図書が保管されているのが、「木見館⁽⁵⁾」という収蔵庫です。この収蔵庫は、2022年に開館から100周年を迎えた南山図書館がその記念事業の一つとして新造したもので、温湿度管理機能や耐火性などを備えた貴重資料専門の収蔵庫です。図書館5階



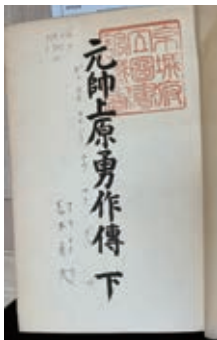
木覧館の正面（写真は南山図書館提供）



「見える収蔵庫」
（写真は南山図書館提供）



ソウル特別市教育庁南山図書館外観



京城府立図書館の蔵書印
がある図書



木覧館に保管された日本語図書

一部の資料は破損した紙片を紛失しないようにビニール袋に入れて保管されています。資料のデジタル化を行う分は脱酸処理も行っているもの、予算的に大規模には難しいとのことでした。公共図書館としては、市民向けのサービスを優先するため、古い資料の対応に手が回らないというやむを得ない事情もあるようです。



木覧館には韓国の古典籍も置かれています。
（写真は南山図書館提供）

の一角に置かれており、「見える収蔵庫」として、来館者も扉のガラス越しに収蔵庫内を覗き込めるようになっています。

訪問した際は、通常は入れない収蔵庫の中も見学させていただきました。中に入ると、京城府立図書館から引き継いだ日本語図書が、文字通り所狭しと並んでいます。一部は市の文化財に指定され、他機関での所蔵を確認することが難しい『京城府立図書館報』などの貴重な資料も保管されています。

ソウル特別市教育庁南山図書館

【所在地】ソウル特別市龍山区素月路 109（厚岩洞）

【日本語図書点数】51,450 点（2024 年 5 月現在）

【目録】『蔵書目録 日本語』Ⅰ～Ⅲ，서울特別市立南山圖書館，1978～1980 年（開館準備期から 1945 年の終戦までに収集した図書のうち、日本語図書 50,997 点を収録。）

【URL】<https://nslib.sen.go.kr/>



(上) 旧第十八銀行仁川支店（現・仁川開港場近代建築展示館）

(下) 日本統治期の建物をリノベーションした韓国近代文学館

韓国近代文学館は仁川文化財団が設立した文学館で、近代の朝鮮語文学作品を所蔵しています。写真は本館建物で、日本統治期には倉庫として使用されていました。隣には三井物産仁川支店として使用されていた建物を改装した企画展示館があります。



仁川広域市弥鄒忽図書館外観



仁川陸軍造兵廠の蔵書印がある図書
(蔵書印部分)

2 仁川広域市弥鄒忽図書館

仁川広域市弥鄒忽図書館⁽⁵⁾は、1922年に開館した仁川府立図書館の蔵書を継承しています。

仁川府立図書館が当初置かれたのは、仁川駅のすぐ隣、鷹峯山の西公園（現・自由公園）内です。この付近は旧市街の中心部に位置し、かつて日本や清国の居留地が設定されました。現在は、日本の旧第十八銀行仁川支店（現・仁川開港場近代建築展示館）など、当時を伝える建築物が保存されています。

戦後は鷹峯山の東側、中区栗木洞に移り、仁川市立図書館⁽⁶⁾として長らくサービスを行っていましたが、2009年に鷹峯山から内陸側へ10キロほど入った南洞区九月洞へ再移転するとともに、弥鄒忽図書館へと名称変更しています。

ところで、弥鄒忽図書館に残る日本語図書には「仁川陸軍造兵廠」という蔵書印が捺された図書があります。仁川は戦前に日本の陸軍造兵廠が置かれた地で、戦後、1949年ごろまでの間に陸軍造兵廠旧蔵の科学書約3千点が図書館に移管されたとされます。今回目にしたこの蔵書印の図書がその時に移管されたものとは断言できませんが、他機関由来の日本語図書も混在するようです。

朝鮮戦争の時期には、蔵書の一部が強盗に遭って行方不明になるという事件もありましたが、幾多の災禍を逃れた約1万点が現在の



(右) 保存書庫の一角に置かれた日本語図書

将来的には、仁川広域市が現在建設を進めている共同保存書庫（市内図書館・博物館が共同運営する保管施設。黔丹新都市に設置予定。）に日本語図書も移送する予定とのことです。

(左) 別置された貴重図書（写真には日本語図書以外も写っています。）

日本語図書の一部は貴重図書とされています。開館 100 周年を控えた 2020 年には、展覧会「100 년의 자료 수집, 인천의 역사가 되다! (100 年の資料収集、仁川の歴史となる!)」が開催され、貴重図書の日本外務省版『林慶業伝』(1907) のほか、仁川関連資料として『仁川府勢一斑』(1938) などが展示されました。

弥鄒忽図書館に残されています。

仁川広域市弥鄒忽図書館

〔所在地〕 仁川広域市南洞区仁州大路 776 番道 53 (九月洞)

〔日本語図書点数〕 約 1 万点 (2023 年 10 月現在)

〔目録〕 『蔵書目録 韓国語圖書 日本語 및 西洋圖書 篇 (1)』 仁川直轄市立図書館, 1981 (1921 年から 1979 年までに受け入れた資料のうち、韓国国内図書 11,756 点、日本語図書 8,253 点、洋書 872 点を収録 [古書と逐次刊行物は除く]。)

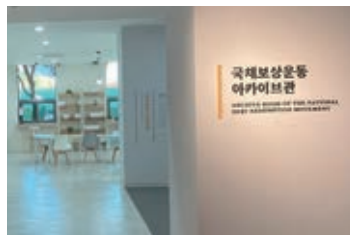
〔URL〕 <https://www.michuhollib.go.kr/>



書庫で保管されている日本語図書
訪問時、一部の資料はデジタル化（後述）のため、国立中央図書館に搬出されていました。いずれこれらの日本語図書は新たに設立される大邱図書館に移管される予定です。



国債報償運動記念図書館外観



国債報償運動に関する展示室
国債報償運動記念図書館の建物のなかで、3-4 階が図書館にかかわるエリアとなっており、1-2 階には国債報償運動に関する展示室が設けられています。国債報償運動とは、大韓帝国期の 1907 年から 1910 年にかけて、国が負った日本に対する債務を償還するための市民の募金運動です。



朝陽会館外観

朝陽会館は戦時中に一時期、大邱府立図書館として使用された洋館です。独立運動家で後に東亜日報大邱支局長を務める徐相日が主導して 1922 年に建築されました。当初は達城公園内にありましたが、現在は忘憂堂公園内に移転・復元されています。

3 国債報償運動記念図書館

国債報償運動記念図書館^①は、大邱^②広域市立中央図書館が 2023 年 7 月に名称変更してリニューアルオープンした図書館で、その歴史は 1919 年 8 月開館の大邱府立図書館に遡ります。

蔵書数は設立当初こそ 1 千点程度でしたが、1944 年には 2 万 1 千 6 百 9 0 点まで増加します。その後、太平洋戦争中の蔵書廃棄や戦後の庁舎移転、朝鮮戦争の動乱による散逸もあり、現在は約 6 千点の日本語図書が残されています。

これらの図書は、図書館のリニューアル前までは古書専門室「楽育齋」^③（1997 年開設）で閲覧に供されていましたが、将来的には新たに設立される大邱図書館（建物は現在建設中で 2025 年開館予定）に移管される予定です（訪問時、日本語図書は利用休止中）。

国債報償運動記念図書館

〔所在地〕大邱広域市中央区公平路 10 道 25

〔日本語図書点数〕5,812 点（2023 年 10 月現在）

〔目録〕『『楽育齋』所蔵資料目録』大邱広域市立中央図書館, 2001 (2000 年 12 月時点での、「楽育齋」所蔵の楽育齋古書 764 点、一般古書 1,610 点、日本古書 636 点、中国古書 146 点、戦前日本語図書 5,471 点を収録。)

〔URL〕<https://library.daegu.go.kr/gukbo/index.do>



一部の日本語図書は収まりきらず、古文庫室以外の書庫に並んでいます。



釜山広域市立市民図書館外観



古文庫室保存庫に並ぶ日本語図書

日本語図書のうち、利用も多い朝鮮をテーマとする図書はグルーピングされ、解題作成作業もこれら朝鮮関連の図書をメインに進められています。早ければ2024年内に朝鮮関連の図書を対象とした解題作成は完了する見通しで、その後対象範囲を拡大する予定とのことです。

4 釜山広域市立市民図書館

釜山^{プサン}広域市立市民図書館⁽⁹⁾は朝鮮初の近代的な公共図書館として知られ、起源となる組織が設立されたのは1901年10月のことです。当時、日本の居留地が設定されていた釜山の龍頭山付近には多くの日本人が集住していました。その居留民のなかから日本弘道会釜山浦支会設立の動きがあり、支会事務所を併設した図書室が置かれたのが始まりです⁽¹⁾。その後、図書室は釜山教育会への移管(1911年)を経て1919年から釜山府の所管となり、名称も釜山府立図書館と変わります。

図書館は1912年以降、龍頭山南側の本町二丁目(現・東光洞2街)に置かれ、この地で終戦を迎えました。戦後は市立図書館となり場所も移転、現在の草邑洞には1982年に移りました(このときに名称も市民図書館に変更)。

現在、市民図書館には約1万8千点の日本語図書が残り、古文庫室で保管されています。一部の図書には破損対策として複製本が用意されているほか、毎年200点程度のペースで脱酸処理を行うなど、保存措置にも積極的です。また、1点ごとに図書の解題⁽¹²⁾を作成したり、古文庫室内で資料展示を行ったりと、更なる利用を喚起するための取組も行われています。



国立中央図書館外観（出典：国立中央図書館ウェブサイト）

5 国立中央図書館

最後に取り上げるのは、国立中央図書館⁽¹⁾⁽³⁾です。国立中央図書館は、朝鮮総督府図書館の蔵書を引き継いで1945年10月に開館しました。

冒頭で述べたとおり、朝鮮総督府図書館は、朝鮮の図書館のなかで最大規模の蔵書を有していました。加えて、同館は検閲制度を介して朝鮮で出版された図書⁽¹⁾⁽⁴⁾のほとんどを収集し得たとされ、そのなかには日本国内の図書館で入手困難な日本語図書も少なくない⁽¹⁾⁽⁵⁾とみられます。現在、約14万点に上るとされる日本語図書は、他の戦前刊行の図書とともに、国立中央図書館古文献室で一括管理されており、

大部分は既にデジタル化されています。

また、国立中央図書館に関して注目すべきポイントはその膨大な蔵書だけではなく、

国立中央図書館は、図書館をはじめとする国内文化機関が所蔵する様々なコンテンツをデジタル化し、統合的なプラットフォームで提供するコリアンメモリー事業を推進しています。この事業でデジタル化された資料は、国立中央図書館が運営する専用サイト「コリアンメモリー」のデータベースに搭載され、一部はインターネットで本文まで公開されます。

これまでに見てきた4つの公共図書館でも、この事業を活用して自館コンテンツのデジタ



（上）戦後の韓国語図書

写真に写っている資料は戦後の韓国語図書です。市民図書館は1950～60年代に韓国で刊行された稀覯本3,646点を所蔵しており、そのデジタル化を進めています。

（下）古文献室所蔵の古典籍類

市民図書館には、近代の日本語図書以外に古典籍も多く所蔵されています。このほか旧釜山領事館（理事庁）の外交記録等、保護国期（1905～1910年）までの行政文書が残されていることで知られます。

釜山広域市立市民図書館

〔所在地〕釜山広域市釜山鎮区ワールドカップ大路462（草邑洞）

〔日本語図書点数〕18,380点（2022年6月現在）

〔目録〕『蔵書目録 朝鮮關聯 解放前日書篇』釜山廣域市立市民圖書館，2005（2005年10月1日時点で所蔵する戦前日本語図書のうち朝鮮関連資料1,717種1,857点を収録。

〔URL〕<https://home.pen.go.kr/siminlib/main.do>

館名	日本語図書のデジタル化状況
ソウル特別市 教育庁南山図書館	2010年から2011年まで：日本語図書893点(独自事業)。 2018年から2022年まで：日本語図書12,987点※1。 2023年以降：近現代韓国語文学の初版本と合わせて年間約3,000点規模で実施(国立中央図書館支援事業)※2。
仁川広域市 弥鄒忽図書館	基本的には仁川関連の韓国語図書。戦前の資料に日本語図書もごく一部含まれる。日本語図書は劣化・破損等の問題でデジタル化を見送っているものが多い。
国債報償運動 記念図書館	2011年：韓国国史編纂委員会と共同で日本語図書103点。 2021年から2023年まで：4,501点(国立中央図書館支援事業)。 全期間を通じて、所蔵する日本語図書5,812点中、4,604点完了※3。
釜山広域市立 市民図書館	2006年：韓国国史編纂委員会と共同で「植民地期稀貴資料」(公的刊行物、一般図書等94種1,036点)等※4。 2018年以降：古典籍、日本語図書、郷土資料等(国立中央図書館支援事業)。デジタル化された日本語図書は約3,900点※5。

表2 各図書館における日本語図書のデジタル化状況

(注記)

- ※1, 2 『서울특별시교육청남산도서관 100 년사』(2023)及び同館の『제 322 회서울특별시의회교육위원회주요업무보고』(2024. 2)より。
- ※3 同館提供の資料より。
- ※4 現在は韓国国史編纂委員会「韓国国史データベース」(<https://db.history.go.kr/>)内で提供。
- ※5 同館提供の資料リストより。

書庫内の日本語図書(写真は国立中央図書館提供)

1945年以前刊行の図書(大部分を日本語図書が占める)は、これまで複数部署が別々に管理していましたが、適切な保存管理のため、2021年にすべて古文庫室に集約されることになりました。保存面以外でも、歴史的に意義のある図書の利活用を促すため、個別の図書への解題付与や専用データベースの構築などが検討されています。



ル化を進めており、その対象には日本語図書も数多く含まれています。

表2に各図書館の状況をまとめました。

例えば、ソウルの南山図書館は、2010～2011年に独自事業として日本語図書893点のデジタル化を実施したことがあります。これだけでももちろん有用なデジタルアーカイブと言えるのですが、2018年以降は、コリアンメモリー事業の一環として国立中央図書館の支援のもと、桁違いの1万3千点弱をデジタル化しています。国債報償運動記念図書館や釜山広域市立市民図書館についても同様のことが言え、かつてない勢いでデジタル化と、国のデジタルアーカイブへの集約が進んでいるところです。

国立中央図書館

〔所在地〕ソウル特別市瑞草区盤浦大路 201 (盤浦洞)

〔日本語図書点数〕約 14 万点 (1961 年 10 月時点)

〔目録〕『蔵書分類目録 解放以前日書部』1～5 巻, 国立中央図書館, 1961～1963 < UP115-K20 > (1945 年までに所蔵された日本人著者と日本語による図書約 14 万点を対象として収録。)

〔URL〕<https://www.nl.go.kr/>



国立中央図書館の古文献室の様子
日本語図書も所管する古文献室は、主に前近代の古典籍や族譜（一族の系譜を記した書物）を所蔵している専門室です。



国立中央図書館の前庭



コリアンメモリーのウェブサイト 기억의 도서관 코리아메모리
（記憶の図書館 コリアンメモリー）

<https://koreanmemory.nl.go.kr/>

2024年6月21日に本公開。国立中央図書館は2018年以降、「文化芸術機関主要所蔵資料デジタル化支援事業」を通じて他機関所蔵資料のデジタル化を進めており、2022年時点で111機関、21万点のデジタル化を完了しています。コリアンメモリー事業は、これらのデジタルデータを単に一つのプラットフォームで提供するに止まらず、複数のデジタルデータを相互に関連付け、テーマ別のストーリー型コンテンツを提供するキュレーション・サービスを目指すものとされます。

おわりに

今回訪問した各図書館は、戦前の日本語図書の所蔵機関として比較的知られたところであり、形式の差はあれ、日本語図書はそれぞれの図書館のなかで一種のコレクションのようない位置付けで管理されていました。

訪問できなかった他の図書館においても、全体像は不明ながら、戦前の日本語図書が少なからず残されていることが知られています。

国立中央図書館が進めるコリアンメモリー事業によって、こうした各地に散在する資料の掘り起こしが進めば、これまで知られていなかった日本語図書が新たに「発見」されるかもしれません。

今回訪問した各図書館の担当の方からは、戦前の日本語図書が図書館の蔵書に含まれることの歴史的な意義付けについては理解しながらも、個々の図書にどのような学術的価値があるのかの判断が難しいという声を度々耳にしました。

今後、コリアンメモリー事業の進展によって日本からのアクセスも容易になるものと思われるかもしれません。それによって、韓国に残る日本語図書を活用した研究、あるいは蔵書そのものに対する研究がより一層進んでいくことを期待します。

最後にこの場を借りて、訪問に際し丁寧にご対応くださった各図書館の皆さんに心より感謝いたします。



国立中央図書館最寄り駅付近の交差点

- 1 これらとは別に大学図書館等も置かれました。京城帝国大学附属図書館は、終戦時点で55万点の蔵書を有したとされます。
(宇治郷毅「近代韓国図書館史の研究 植民地期を中心に」『参考書誌研究』(34), 国立国会図書館, 1988.7 <https://dl.ndl.go.jp/pid/3051261>)
今回紹介する図書館を含め、韓国に残る日本語資料の調べ方は、リサーチ・ナビの次のページでもまとめています。
リサーチ・ナビ「韓国所在植民地期日本語文献の調べ方」 https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/asia/post_109
- 2 1920年7月、南満洲鉄道株式会社により「満鉄京城図書館」として設立されました。1925年4月に朝鮮総督府鉄道局の管轄となり、「鉄道図書館」に改称しています(宇治郷毅「近代韓国公共図書館史の研究 開化期から1920年代まで」『参考書誌研究』(30), 国立国会図書館, 1985.9 <https://dl.ndl.go.jp/pid/3051216>)。
- 3 例えば次のようなものがあります。
永島広紀「釜山・嶺南地域に残る歴史資料の現状について―主に日本統治期を中心に」『年報朝鮮学』(7), 九州大学朝鮮学研究会, 1999.9 <Z22-1608>
同「韓国所在の近代日韓関係に由来する図書・史料所蔵機関について」『韓国研究センター年報』(17), 九州大学韓国研究センター, 2017.3 <Z71-E968>
科研費基盤研究(B)「台湾・朝鮮・満州に設立された日本植民地期各種図書館所蔵日本語古典籍の書誌的研究」文部省科学研究費補助金研究成果報告書(研究代表者: 松原孝俊) 2000-2001 <Y151-H12551007>
- 4 南山図書館については次を参照。『서울특별시교육청 남산도서관 100년사』서울특별시교육청 남산도서관, 2023 <UL245-K24>
- 5 弥郷忽図書館については次を参照。『미추홀도서관의 어제와 오늘: 미추홀도서관 100년 기념』인천광역시 문화유산과 시사연구팀, 2021
本書には『인천시립도서관지』(인천시립도서관, 1961), 『인천시립도서관요람』(인천시립도서관, 1963)の復刻が掲載されています。
- 6 1981年7月に直轄市昇格、1995年1月に広域市への改編に伴い、仁川直轄市立図書館、仁川広域市立図書館に改称しています。
- 7 国債償還運動記念図書館(旧・大邱広域市立中央図書館)については次を参照。『대구중앙도서관 100년사』대구광역시립중앙도서관, 2019
- 8 楽育斎という名称は、朝鮮時代の慶尚監營(慶尚道地域を管轄する地方行政機関)に置かれた教育機関「楽育斎」(1721-1906)にちなんで名づけられたものです。楽育斎旧蔵の古書も大邱広域市立中央図書館「楽育斎」で所蔵していました。
- 9 釜山広域市立市民図書館については次を参照。『釜山市民圖書館 100年史 1901-2001』釜山廣域市立市民圖書館, 2002 <UL245-K6>
- 10 明治期の思想家で貴族院議員も務めた西村茂樹を会祖とする国民道德振興団体。
- 11 図書館設立の経緯については次の論文で詳しく取り上げられています。古垣光一「日本弘道会釜山浦支会の教育・文化活動―図書館事業を中心として」『道德と教育』50(通号324), 日本道德教育学会, 2006 <Z7-33>
- 12 1969年に『釜山市立圖書館所蔵貴重本 圖書解題』として第1輯刊行。第4輯(1974)以降中断していましたが、2002年から再開、2023年に第22輯が刊行されています(これまでの累計で日本語図書1,492種の解題作成)。
- 13 国立中央図書館については次を参照。
国立中央圖書館『國立中央圖書館史』國立中央圖書館, 1973 <UL215-5>
河田いこひ「アジア侵略と朝鮮総督府図書館(1)～(5)」『月刊状況と主体』140～144, 谷沢書房, 1987.8-12(『國立中央圖書館史』のうち、「朝鮮総督府図書館時代」の日本語訳を掲載)
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2207903/1/37>
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2207904/1/67>
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2207905/1/51>
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2207906/1/63>
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2207907/1/76>
- 14 森田芳夫「韓国における主要図書館および蔵書目録」『朝鮮学報』(通号116), 1985.7 <Z8-413>
- 15 国立中央図書館の日本語図書については、当館所蔵図書とのマイクロ資料による交換という形式で、平成7年度から同10年度にかけて収集を行ったことがあります(『国立国会図書館年報』各年度より。[『韓国国立中央図書館所蔵史誌マイクロ資料』]全16巻<YD1-380>)。なお、国立中央図書館、釜山広域市立市民図書館、ソウル大学校図書館などの韓国の図書館、当館や京都大学図書館などの日本の図書館に所蔵されている朝鮮刊行の日本語図書については、鄭炳浩氏による目録化が行われています。정병호 편『일제강점기 일본어 단행본 목록집』보고사, 2007 <UP151-K4>

※ URLの最終アクセス日: 2024年7月8日。

※ 掲載した写真は、特に断りがない限り、筆者撮影。

※ < >内は当館請求記号

筆者が所属する関西館アジア情報課では、日本を除く東アジアから中東・北アフリカまで、幅広い地域を対象に資料・情報を収集し、皆様にご提供しています。

そんな当課にとって大きなイベントの一つが、例年12月頃に開催しているアジア情報研修です。アジア情報研修は、図書館、調査研究機関、中央省庁・地方自治体の職員等を対象に、アジア情報の収集・提供に関するスキル向上などを目的として実施するもので、近年は独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所（以下「研究所」）と共催しています。昨年度は、「変化する中国を調べる」をテーマとし、筆者も講師の一人として参加しました。

研修の準備は、年度当初から始まります。まず検討するのは、日程、対象とする国・地域やテーマ、定員、科目構成（図書館資料やウェブサイトを実際に使用して問題に解答する実習の時間の有無）、当課と研究所との役割分担などです。現地の言葉で書かれた資料・情報源を取り上げるか否かは、毎回頭を悩ませるところ。日本語・英語に限ると受講のハードルは低くなるでしょうが、紹介できる情報源が減ってしまうからです。

次に、講師役職員が、それぞれが受け持つ講義科目の資料を作成します。馴染みのある分野であればよいですが、そうでなければ一苦勞。当館の所蔵資料を読み比べたり、政府や研究機関などのウェブサイトを開覧したりして、信頼性と鮮度の高い情報源を探し回ります。また、実習のために適当な問題を作成するのは案外難しいものです。過去のレファレンス事例なども参考に、問題を作成しては自分で解いてみることを繰り返します。

研修の約一か月前には当課内で、そして研究所と合同で、リハーサルを行います。様々な指摘を受けるのはもちろん、講義で紹介するウェブサイトが閲覧できなくなっていることに気づく、なんてことも。

最後に、リハーサルの反省を踏まえて資料を修正すれば準備は完了。あとは当日、講義が順調に進み、実習時間のグループ討論や発表が盛り上がることを祈るばかりです。

さて、研修の内容はというと……。これまでの講義資料を、当館のウェブサイト「リサーチ・ナビ」のアジア情報研修のページに掲載しています。興味を持たれた方はぜひご覧ください。

（アジア情報課 いちげんさん）

アジア情報研修の 舞台裏



講義資料（手前）と実習で使った統計類（奥）

* 講義資料は「リサーチ・ナビ」アジア情報研修のページ
https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/asia/asia_workshopに掲載しています。

本屋に

ない

本



近代村絵図・地図の世界
明治の地図はどうつくられたか
長野県絵図・地図共同研究報告書

長野県絵図・地図共同研究事業実行委員会 編・刊
2017.3
126 p ; 30 cm
<請求記号 YU7-L2328>

当館には、近現代の文書類を扱う専門

今回ご紹介する本は、長野県立歴史

ていることに驚かされます。

郡といった行政単位の変化など、土地

の書簡や書類に交じって、細い筆で描かれた手書きの地図や図面に出会うことがあります。いったい何が描いてあるのかと見入っていると、土地の売買

館と、測量・製図の専門家がタッグを組んで実施した共同研究の報告書です。同館が所蔵する明治初期の絵図・地図約千点について、データの作成と資料の分類をめざし、長野県測量設計

図面そのものから読み取れる測量や製図の技術を糸口にして、明治初期の長野県でどのように地図が作られていたのかを知ろうとしていることです。

研究としての成果もさることながら、本書の末尾にカラー版で掲載された「特徴ある村地図のセレクション」も見ごたえがあります。

や建物の建築など、図が使われた用途

業協会との共同調査が行われました。

明治初期は、近代的な測量技法が長野県内で本格的に導入される前でした。しかし、研究対象の絵図・地図の作成には測量や縮図の技術が用いられており、非常に精度が高い作例もありました。地域に伝来する製図用具や他の資料も調査し、図の作成に使われた測量や縮図の技術は、実は江戸時代から地域に受け継がれたものであったと推定しています。

ケバと呼ばれる細い線や彩色で立体的に表現される山々、血管のように走る道路と溪流、遠景の連峰の絵と測量図とが不思議に融合した地図……明治時代の地図表現の美しさと自由さを、見どころの紹介付きで味わえる、目にも楽しい一冊です。

手間をかけて作成されているだけあつて、どの図にも、描き手が伝えたかったことが込められていることに気づく

絵図・地図は、たとえば明治政府が指示した全国地誌編纂のために作られた地図など、いくつかのグループに分類

ており、非常に精度が高い作例もありました。地域に伝来する製図用具や他の資料も調査し、図の作成に使われた測量や縮図の技術は、実は江戸時代から地域に受け継がれたものであったと推定しています。

も楽しい一冊です。

です。

さて、そのようなおもしろい資料である明治時代の絵図・地図を、現代の測量・製図のプロフェッショナルが研究したら、いったいどんなことがわかるのでしょうか？

明治維新は、地租改正、町村や区・

（鈴木 遼香）

ある明治時代の絵図・地図を、現代の測量・製図のプロフェッショナルが研究したら、いったいどんなことがわかるのでしょうか？

の線や用紙に残った針穴にまで注目し

明治維新は、地租改正、町村や区・

（鈴木 遼香）

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

第26回図書館総合展に参加します。

11月5日（火）から11月7日（木）までパシフィコ横浜で、11月16日（土）から11月24日（日）までオンラインで開催される「第26回図書館総合展」（主催：図書館総合展運営委員会）に、国立国会図書館も参加します。

展示ブースや図書館総合展のウェブサイト上で、国立国会図書館の様々なサービスをご紹介します。また、期間中に次のフォーラム（会場開催）を開催します。

フォーラム「オープンサイエンスを社会につなぐために―国立国会図書館の取組を踏まえて」

○日時 11月6日（水）13時～14時30分

○会場 パシフィコ横浜アネックスホール（定員200名）

○登壇者 根本彰東京大学名誉教授

林和弘文部科学省科学技術・学術政策研究所データ解析政策研究室長

倉田敬子国立国会図書館長

大場利康国立国会図書館利用者サービス部長 ほか

○お申込みは9月上旬頃から国立国会図書館ホームページにて受け付けます。ホームページの「イベント・展示会情報」をご覧ください。

○問合せ先 総務部 総務課 広報係
電話 03（3581）2331（代表）

国際子ども図書館展示会

「国際アンデルセン賞受賞作家・画家展」

国際アンデルセン賞は、児童文学への永続的な寄与に対する表彰として、国際児童図書評議会（IBBY）から隔年で贈られる国際的な賞で、「小さなノーベル賞」とも言われています。

この展示会では、一般社団法人日本国際児童図書評議会（JBYY）との共催により、2022年までに国際アンデルセン賞を受賞した65人の作家・画家とその作品を紹介します。

65人の受賞者全員の作品を所蔵する機関は国際的にも珍しく、一か所に集めた展示会は大変貴重です。この機会にぜひご来場ください。

○開催期間 10月1日（火）～12月25日（水）

※月曜日、国民の祝日・休日、毎月第3水曜日（資料整理休館日）は休館

○開催時間 9時30分～17時

○会場 国際子ども図書館レンガ棟3階本のミュージアム



展示会「国際アンデルセン賞受賞作家・画家展」ちらし

〈関連イベントのご案内〉

「国際アンデルセン賞受賞作家・画家展」関連講演会

2018年国際アンデルセン賞作家賞受賞者角野栄子氏並びに児童文学及び国際アンデルセン賞に造詣が深い一般財団法人大阪国際児童文学振興財団理事・総括専門員の土居安子氏を講師にお迎えし、ご講演いただきます。（角野栄子氏は動画での出演のみです。）

○日時 10月6日（日）14時～16時（13時30分受付開始）

○会場 国際子ども図書館アーチ棟1階研修室1

○対象 中学生以上

○定員 100名（事前申込み制、先着順）

○申込方法 講演会HPからお申し込みください。
<https://www.kodomo.go.jp/event/event/event2024-10.html>

○申込締切 9月30日（月）

会場では、あらかじめ録画した講演動画を上映します。動画上映後、来場者から質問を受け付け、土居安子氏から御回答いただきます。また、土居安子氏と国際子ども図書館長との対談を行います。

講演会終了後、講演動画をYouTubeの国立国会図書館公式チャンネルで公開します。（公開期間 10月7日（月）～12月25日（水））

○問合せ先 国際子ども図書館資料情報課展示係
電話 03（3827）2053（代表）

NDL Topics

シンポジウム「デジタルシフトの次へ—米国議会図書館の新戦略から見えてくるもの—」

国立国会図書館は、2021年から2025年までのビジョンである「国立国会図書館のデジタルシフト」に基づき、多様な情報資源を提供するユニバーサルアクセスの実現と、そのための恒久的なインフラとなる国のデジタル情報基盤の拡充を進めています。

本シンポジウムでは、現ビジョンの最終年を来年迎えるに当たり、デジタルシフトの次のビジョンにおける国立国会図書館の方向性について議論します。

第一部では、米国議会図書館首席副館長J・マーク・スウィーニー氏を講師に迎え、昨年10月に発表された同図書館の2024年から2028年までの新戦略「すべての人のための図書館 (A Library for All)」についてご講演いただきます。

第二部は、米国議会図書館の新戦略を手がかりに、議会、情報工学、教育・コミュニティに造詣の深い有識者をお迎えし、国立国会図書館が今後果たすべき役割について、多角的な観点からパネルディスカッションを行います。

※第一部の講演は英語で行われます（日本語の同時通訳があります。）。

○日時 9月24日（火）14時～17時（開場 13時30分）

○会場 国立国会図書館東京本館新館講堂

○登壇者 J・マーク・スウィーニー氏（米国議会図書館首席副館長）、只野雅人氏（一橋大学大学院法学研究科教授）、喜連川優氏（情報・システム研究機構機構長、東京大学特別教授）、溝上智恵子氏（国

士館大学特任教授、筑波大学名誉教授）、山地康志（国立国会図書館副館長）

○参加費 無料

○申込方法 国立国会図書館ウェブサイトの左記のページから9月18日（水）17時までにお申し込みください。定員（200名）に達した時点で受付を終了します。

シンポジウム「デジタルシフトの次へ—米国議会図書館の新戦略から見えてくるもの—」
<https://www.ndl.go.jp/event/events/20240924sympo.html>



○問合せ先 総務部企画課企画係
電子メール lecture@ndl.go.jp



シンポジウム「デジタルシフトの次へ—米国議会図書館の新戦略から見えてくるもの—」ポスター

令和6年度アジア情報研修

アジア情報の収集・提供に関するスキル向上を図るとともに、アジア情報関係機関間の連携を深めることを目的として、令和6年度アジア情報研修を日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所と共催で実施します。

○日時 12月6日（金）9時30分～16時10分

*終了後に希望者に対して関西館の書庫見学を実施します。

○会場 国立国会図書館関西館第一研修室

○対象 各種図書館、調査・研究・教育機関、中央省庁・地方公共団体等に属する方、大学院生等。

*現地語の知識がなくてもご参加いただけます。

○定員 20名（原則、1機関につき1名。応募多数の場合は調整します。）

○テーマ 東南アジア諸国の情報を調べる

○内容（予定）

科目①「各国の図書館資料検索サービスやデジタルアーカイブを使う」（関西館アジア情報課）
科目②「統計を調べる—タイを中心に—」（アジア経済研究所学術情報センター）

*「科目①」及び「科目②」は、実習を行います。

*受講者の方には、事前課題にご解答いただきます。

○参加費 無料。ただし、旅費等は受講者にご負担いただきます。

NDL Topics

○申込方法 アジア経済研究所ウェブサイトの左記の

ページからお申し込みください。

「アジア情報研修 東南アジア諸国の情報を調べる」
https://www.ide.go.jp/Japanese/Event/Library/20241206_kensyu.html



*申込受付後にお送りする確認メールが届かない場合は、問合せ先までお電話ください。

○申込締切 10月17日（木）

*参加の可否は、10月25日（金）までにお知らせします。

○問合せ先

日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所
学術情報センター 図書館情報課 情報サービス班
電話 043（299）9716
電子メール alisib@ide.go.jp

令和6年度アジア資料書誌作成セミナー

—ベトナム語・初級編—

図書館職員等を対象に、アジア資料の書誌作成スキルの向上及び他機関との情報共有を図るため、令和6年度アジア資料書誌作成セミナーを開催します。今年度は、近年在留者数の増加に伴い図書館の現場でもニーズが高まっているベトナム語を対象に実施いたします。これまでベトナム語資料の書誌作成の経験がない方にもご参加いただけます。

○日時 10月23日（水） 14時～16時

○開催方法 Web会議システム（Microsoft Teams）
によるリモート開催

○対象 各種図書館に所属し、書誌作成を担当する方等

（ベトナム語の語学力は問いません。）

○定員 80名（先着順）

○内容

関西館アジア情報課の職員が、ベトナム語資料の書誌データを作る際に必要となる基本的な知識（文字の理解や入力方法、辞書のウェブサイトの紹介など）についての講義を行います。また、質疑応答等を通じて参加者間の情報交換も行います。

○参加費 無料。ただし、通信費等は受講者にご負担いただきます。

○申込方法 国立国会図書館ウェブサイトの左記の

ページからお申し込みください。

「令和6年度アジア資料書誌作成セミナー 申込画面」
https://form.ndl.go.jp/form/pub/ndl7/seminar2024_apply



*申込受付後にお送りする確認メールが届かない場合は、問合せ先までお電話ください。

○申込締切 10月2日（水）

*ただし、定員に達した段階で受付を終了します。

○問合せ先 関西館アジア情報課

電話 0774（98）1371（直通）
電子メール ni-k-asia@ndl.go.jp

「帝国議会会議録検索システム」で全期間の本文テキストデータが利用できるようになりました（令和6年8月）

戦前・戦中期分（明治23（1890）年11月～昭和20（1945）年8月）の速記録の画像データ（合計約27万ページ）からOCR（光学的文字認識）で作成した本文テキストデータを、新たに公開しました。

これにより、既に本文テキストデータを提供している戦後期分（昭和20（1945）年9月～昭和22（1947）年3月）と合わせて、帝国議会の全期間にわたり、速記録に掲載された質疑や議案本文などを全文検索できるようになりました。



令和6年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会

6月27日、標記懇談会が開催されました。この懇談会は、国立国会図書館と公共図書館との協力の推進を図ることを目的として開催され、今年で59回目となります。5年ぶりに対面形式により行い、都道府県立及び政令指定都市立図書館64館が参加しました。

はじめに、高木秀人文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長が、最近の図書館行政の動向について報告しました。続いて、今年度の懇談会のテーマ「災害防災、図書館」の下、石川県立図書館の田村俊作館長が令和6年能登半島地震の同館及び県内の他図書館における被災状況と同館が行った支援について報告し、岩手県立図書館の森本晋也館長が同館の震災・防災の学び合いスペース「1ルーム」の概要と「1ルーム」を活用した復興・防災教育の事例等について報告しました。

後半は、各館での災害対策や地域の情報拠点としての取組・課題をテーマに、8つのグループに分かれて意見を交換し、各グループの代表者が内容を報告しました。より実用的な防災マニュアルの整備や開館日に利用者も参加して行う実効性のある避難訓練の必要性、職員の防災意識の向上、館内ハザードマップの作成の重要性が指摘されました。このほか、災害記録の収集、デジタルアーカイブ公開、資料展示、防災講座の開催等、地域の情報拠点としての取組についての紹介もありました。



令和6年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会

新刊案内

外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第300号

『外国の立法』第300号刊行にあたって

アメリカ…高等教育の経済的価値透明性拡大と大学の説明責任—連邦規則の制定—

アメリカ…連邦学生ローン所得連動型返済プラン新規則

ドイツにおける電気自動車用充電インフラ整備に関する施策—急速充電法を中心に—

韓国…身元を明らかにしない出産制度の創設

中国…未成年者ネットワーク保護条例の制定



A4 123頁 季刊 1,980円(税込)
ISBN 978-4-87582-931-7
発売 日本図書館協会

レファレンス 882号

2020年代のスイス農業・食料供給政策の動向
アイルランド憲法とケア—2023年改正案の国民投票での否決—

中央銀行デジタル通貨(CBDC)をめぐる動向
高齢者就労支援に関する取組—九州地方における諸機関の取組事例—(現地調査報告)



A4 97頁 月刊 1,100円(税込)
発売 日本図書館協会

レファレンス 883号

カナダ憲法の改正と州の主権—ケベック州及びアルバータ州を例として—
中小企業の事業継続計画(BCP)をめぐる経緯と論点

環境政策の発展と環境言説—持続可能な発展とエコロジック近代化—



A4 79頁 月刊 1,100円(税込)
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812

本誌の読者アンケートを実施しています

『国立国会図書館月報』のより良い誌面作りを目指し、6月25日（火）から12月5日（木）まで読者アンケートを実施しています。皆様から寄せられましたご意見・ご感想を、今後の企画・誌面作りの参考にさせていただきます。

以下のURL、QRコードからアクセスし、ウェブフォームでご回答ください。読者の皆様のご回答をお待ちしております。

アンケート URL

<https://enquete.ndl.go.jp/131776/p/GSO>



9/10

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2024.9/10

NO.761/762

SEPTEMBER/OCTOBER
2024

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Travel encounters transcend place and time: *Pioneering in the Far East*
- 05 Exhibition
Open, roll, and appear: The world of picture scrolls
- 14 Travel writing on world libraries
Libraries in Korea: Exploring prewar Japanese-language books
- 25 <Tidbits of information on NDL>
Inside story of Training program on Asian information
- 26 <Books not commercially available>
Kindai muraezu · chizu no sekai: Meiji no chizu wa do tsukuraretaka: Naganoken ezu · chizu kyodo kenkyu hokokusho
- 27 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和6年9/10月号 (No.761/762)

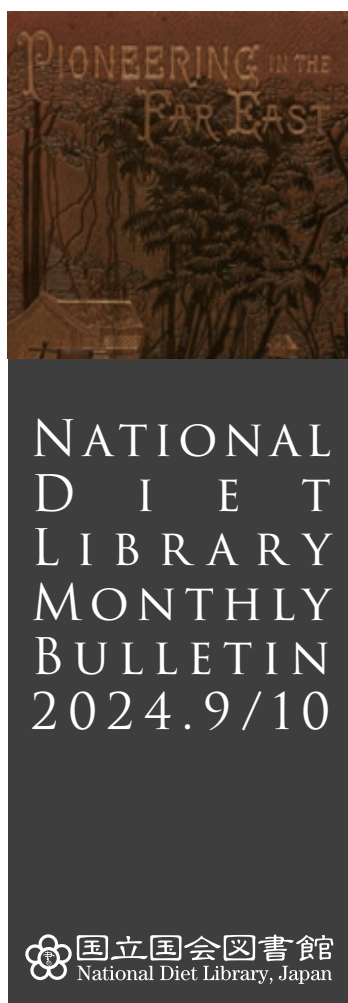
令和6年9月1日発行

発行所 国立国会図書館
編集者 川西晶大
責任者

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を転載する場合（全文または長文にわたり抜粋する場合、または図版を転載する場合）には、
事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ（<https://www.ndl.go.jp/>）>刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



図

国

国

書

人

士